交流だより

山梨県立あけぼの支援学校
令和４年９月３０日発行
令和４年度第１号

交流及び共同学習について

校 長　小田切 一博

交流及び共同学習（以下：交流等活動）は、障害のある子供と障害のない子供、あるいは地域方々と触れ合い、活動する事を通して、障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、互いに経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会となります。また、学校卒業後は、障害のある子供にとっては、様々な人々と共に助け合う中で、積極的な社会参加につながるとともに、障害のない子供たちにとっては、障害のある人への積極的な支援や人々の多様な在り方を理解し、障害のある人と共に支え合う意識を育む目的があります。本校においては、これまで交流校や地域の関係者のご理解とご協力の中、充実した取り組みを積み上げてきているところです。

障害が重い児童生徒が多数在籍する本校においては、新型コロナウィルスの感染が拡大の状況下では、直接的な交流が難しい状況があり、オンライン会議システムを活用した双方向の交流について取り組みを行っております。自己紹介や音楽等の発表、クイズ大会等を実施し、画面越しではありますが、共に楽しい時間を過ごし、双方が知り合う機会になっているようです。今後も実施方法を工夫しながら、充実した交流等活動をすすめいくことができたらと考えております。交流等活動を通して、子供たちが幅広い体験を得、視野を広げることで、豊かな人間形成に資することにつながりますようお願いいたします。

学校間交流

○増穂南小学校との交流

６月２２日（水）に増穂南小学校の児童とビデオ通話によるオンラインでの交流を行いました。Teams のブレークアウトルームを活用したことで、子ども同士が長い時間交流をすることができました。今年度は、両校の授業の様子を紹介する時間を取り入れました。同学年の授業の様子を見ることで「自分たちも頑張ろう」とよい刺激を受けていました。また、本校の教科学習や自立活動の様子も紹介しました。増穂南小学校の児童から、「自分たちと同じ教科を勉強していることを初めて知った。」「自分の体の動かし方についての勉強もあるんだ」という感想が聞かれました。はじめは緊張した様子でしたが、互いの学校での活動を紹介し合ったり、好きなことなどの質問をし合ったりするうちに緊張もほぐれ、自分自身の言葉や身振りで答えるなどして、積極的にかかわりを楽しむことができました。

【オンライン交流をする様子】

○韮崎西中学校との交流

７月１日（金）に韮崎西中学校の福祉ボランティア委員会１～３年生の生徒達とオンラインによる交流会を行いました。それぞれの教室でグループごとに行いました。自己紹介の後、グループごとに「同世代との討論」「ジャンケン質問ゲーム」「ジェスチャークイズ」「流行りの曲の合奏」「自己紹介クイズ」を行いました。画面越しに、いつもとは違う同年代の声や様子を感じることができ、生徒達はとても良い表情をしていました。お互い楽しい時間を共有することができました。

【韮崎西中学校の生徒の自己紹介中】

○高等部三校間交流

【ビデオレターを真剣に観ています】

甲府商業高等学校と日本航空高等学校と行っている三校間交流では、毎年交換しているプロフィール表とビデオレターの作成を行いました。趣味やチャームポイント等、自分をアピールできることを書き、そして各グループで自己紹介や授業風景等の動画を撮影しました。相手校から届いたプロフィール表は廊下に掲示し、ビデオレターは、どんな人なのか、どんな学校なのかとワクワクしながら観ました。今後は第２回の交流会が１２月に予定されています。交流内容をみんなで考えながら形づくっていきたいと考えています。

○韮崎工業高校との交流

【自己紹介で好きなものをアピール！】

本校では、韮崎工業高等学校木材加工班の方々に教材作製をお願いすることを通して行う交流を例年実施しています。例年は対面して交流会を行いますが、今年度の第１回交流会は６月１５日（水）にオンラインで両校をつないで実施しました。両校の参加児童生徒を３つのグループに分けて、それぞれのグループごとの自己紹介や質問タイムで大いに盛り上がりました。韮崎工業高等学校生徒からの趣向を凝らした自己紹介や、その自己紹介の内容からの質問が出された質問コーナーでは、それらの様子が映し出された画面を、本校の児童生徒は興味深そうに見つめていました。本校からは、これまでにいただいた教材の紹介や実際にそれらを日々の学習活動に活用している様子を伝えるなどして、感謝の気持ちを伝えました。終始楽しい雰囲気の中、オンラインでの交流でも両校の児童生徒がお互いの多様性を感じ合い、認め合う良い機会となりました。１月の教材受け入れ式が今から楽しみです。

いきいき教育地域人材活用推進事業

本校では幅広い経験や優れた知識・技能をお持ちの、地域在住の専門家・社会人を講師として学校に招く「いきいき教育地域人材活用事業」を実施しています。今回は梅雨の空気を感じる中、「ピッピの会」宮崎さな子様をお招きし、体育館で「おはなし会」を実施しました。今年度は感染症対策のため学部毎に分け、またグループごと距離をとっての形となりました。「あたしのあ　あなたのア」「ふしぎなナイフ」では宮崎様の抑揚のある巧みな話し方に詩の世界観を感じながら楽しむことができました。「ことばあそびうた」ではテンポよいことばの連なりに自然と体が動いてしまうほどでした。指人形の「おはなし　ゆびさん」では知っている歌に思わず声を出してしまう児童生徒もいました。参加者からは「シンプルに「あ」とくりかえす本、子どもが思わずいっしょに「ア～ン」と口をあけてききいっていました。」「実際におはなしをしていただけて生での迫力もありとてもよかったです。」「宮崎さんのお話に引きこまれ、子どもたちがよくきいて楽しい時間となりました。」「子どもたちは今回読んでくださった本や紹介された作者に興味を持ち、早速図書館で本を探していました。」などの声が聞かれ、とても有意義で素敵な時間を過ごすことができました。

※前期の学校間交流は全て間接交流として実施しましたが、直接ふれあえなくてもプロフィール表の交換やビデオ通話によるオンラインでのやり取りを通して、お互いのことを知り、思いや考えを伝え合う中で、認め合う時間になったと思います。いきいき教育地域人材活用推進事業では、「ピッピの会」による絵本の読み聞かせなどを、体育館での感染症対策を施す中でアクリル板越しで鑑賞することもしましたが、直接鑑賞できる大切さを実感することができました。大切にしている楽しみな時間だからこそ、お互いが安心して交流できる時間の作り方をこれからも検討していきたいと思います。